

令和 6 年度鹿児島県原子力防災訓練の結果について

1 令和 6 年度県原子力防災訓練概要

(1) 実施日時

令和 7 年 2 月 14 日（金） 14 時 00 分～18 時 15 分
15 日（土） 8 時 30 分～17 時 30 分
16 日（日） 8 時 30 分～17 時 00 分

(2) 参加機関・参加機関数

参加機関：294 機関（年度間：302 機関）

参加者数：約 4,820 人（年度間：約 7,060 人）

※ 国の原子力総合防災訓練と一体となって実施

※ 年度間には、令和 6 年度において、2 月 14～16 日以外に原子力
防災訓練を行った学校等を含む

(3) 訓練の特徴

① 複合災害（地震）を想定した訓練

ア 能登半島地震を踏まえて新たに実施した訓練

- ・ 地震被害により、避難計画上の避難先へ避難できない事態を想定した代替の避難先への避難
- ・ 道路損壊のため消防車が進入できない地域での火災発生を想定したヘリによる火災消火
- ・ 断水地域での屋内退避を想定した給水車による応急給水
- ・ 通信障害時における電気通信事業者による移動基地局車の設置
- ・ 孤立地区を想定した救助
- ・ 孤立地区発生を想定した応急架橋
- ・ モニタリングポストの欠測を想定した無人航空機モニタリング

イ 従来から実施してきている訓練

- ・ 道路啓開
- ・ 自宅の家屋倒壊を想定した倒壊家屋からの救助
- ・ モニタリングポスト等が使用できない場合の可搬型モニタリングポストによる測定 等

② より実効性を高めるという観点から新たに実施した訓練

- ・ 情報収集や会議の発言内容等を要員判断で実施するブラインド訓練
- ・ 国家備蓄安定ヨウ素剤の輸送
- ・ 避難退域時検査場所からの被ばく傷病者対応訓練

2 外部委託による評価等及び県の対応の方向性

<凡例>

- ：県外部委託による評価，◎：国外部委託による評価
 ●：訓練参加者からの意見，★：専門委員会委員による意見

(1) 県災害対策本部訓練

① 良好事例

内容
○鹿児島県災害対策本部（以下，「県本部」）設置・運営訓練では，本部設置等の初動対応が的確に実施された。
○市町とのＴＶ会議は，現状認識及び今後の対応についての相互協力など，意思疎通を図り情報を共有する上で効果的であった。
○◎道路の損壊や避難先の被害状況を把握して代替避難先を調整するとともに，避難用車両を確保した。 こうした調整を「原子力災害時避難支援・円滑化システム」や「避難車両配車システム」を活用し，円滑に実施することができた。
◎災害発生後の災害応急体制・関係市町との連携については，状況把握・必要な体制確立など，迅速な対応ができていた。

② 課題及びその対応の方向性

改善すべき課題	県の対応の方向性
○本部会議運営等の訓練が多く行われ，要員の実作業が限定的なものとなっていた。	・ 県，市町及び実動機関の実務担当者等による要素訓練の実施を本訓練と別日程で検討する。
◎県本部と各実動機関のリエゾン等と相互に情報共有するための地図，ホワイトボード，電話，ＦＡＸ等の通信機器，広域避難計画等の緊急時に使用する各種計画・マニュアル類が整備されていなかった。	・ 情報共有のための地図やホワイトボード，広域避難計画等の緊急時に使用する各種計画・マニュアル類等をリエゾン控え室に準備する。 ・ 電話等の通信機器については，今後対応を検討する。
◎県本部が原子力防災システム（以下，「ＮＩＳＳ」）により国へ情報伝達を行う際，県現地災害対策本部（以下，「県現地本部」）への情報共有がされていない場合があった。	・ 必要な情報については，県現地本部への情報共有を徹底する。

●複合災害時において、要員が参集できない事態を想定する必要があるか。	・要員が参集できない事態を想定した訓練について検討する。
------------------------------------	------------------------------

(2) 県現地災害対策本部訓練

① 良好事例

内容
〇〇県現地本部設置・運営訓練では、昨年度から試行した県現地本部会議が定着し、事態の状況に応じて事前の責任者会議の開催や現地本部長への説明が行われるなど、適切な運営がなされ、県現地本部のチーム横断的な情報共有促進に寄与したものと考えられる。 また、関係市町や国の各機能班との情報共有を効率的かつ円滑に行っていた。
〇医療チームでは、要員の処理能力が高く、またN I S S等の情報共有における、印刷、付番管理、主要活動ボードへの記載などの役割分担が的確になされており、全国的に見てもスキルが高いと考えられる。
〇総括・広報チームでは、15条事象発生通報に即座に対応して、総括班やプラントチームに情報確認するとともに、対応事項の検討を迅速に行っていた。
〇事前訓練を含めた3回の訓練を通じてチーム内の役割についての理解が高まった。事前説明やマニュアルにより、活動の理解が図られていた。

② 課題及びその対応の方向性

改善すべき課題	対応の方向性
〇●複合災害時は、県現地本部の業務に従事できる職員に限られていることから、より多くの職員の訓練参加が望ましい。	・本訓練及び内閣府の図上演習を毎年度実施することにより、職員の参加者数の増加を図るとともに、原子力防災に係る研修について要員以外の職員にも参加を呼びかける。

◎県現地本部は地震発生後１時間後には約70名の体制で活動をスタートさせていたが、大規模地震発生時にこれだけ多くの要員を参集できるのか。	・今後対応を検討することとした。
●県現地本部内の連携・情報共有を図るため、活用可能なモニター等を追加配備してほしい。	・モニター等を追加配備する。

(3) 住民避難・避難退域時検査訓練

① 良好事例

内容
○県原子力防災アプリ上に表示されるQRコードを使用した避難所の受付や安定ヨウ素剤配布時等の本人確認がスムーズに行われていた。 また、アプリをインストールしていない住民には、紙に印刷したQRコードの配布を行い配慮がなされていた
◎PAZ内の社会福祉施設においては、要配慮者の状態についての体調の確認等や、携帯電話で関係先への避難に関する連絡を行うなど、職員がマニュアルに準じた対応を行っていた。
◎各避難所等で行われた原子力防災講習会において、放射性物質と放射線の違い、放射線自体は意外と身近なものにあるという、住民が理解しやすい基礎的な内容を身近なもので親しみやすく説明が行われていた。

② 課題及びその対応の方向性

改善すべき課題	対応の方向性
○住民避難等の実動訓練において、高齢者の参加割合が高く、若年層の参加割合が低い。	・幅広い年齢層の住民に参加していただくよう市町への協力を依頼する。
○一部に安全と言いがたい避難経路を通して住民避難を行う訓練が実施されていた。	・避難訓練において、住民の安全確保に努める。

●避難退域時検査場所において、安定ヨウ素剤を配布する際、県原子力防災アプリをダウンロードしていないケースや、同アプリに情報が事前登録されておらず、口頭で問診確認するケースが多く見受けられた。	・新たに、ダウンロード方法に関して分かりやすく説明する動画などを用いながら、県原子力防災アプリのダウンロードを促進する。 ・市町の住民説明会に担当職員が同席し、事前に安定ヨウ素剤に関する住民への理解を深めるとともに、県原子力防災アプリによる問診を活用するよう周知する。
●住民検査で汚染された住民が確認された際に、検査前に待機箇所で座っていた椅子が除染されていなかった。	・待機場所等の椅子の除染を行う要員を配置して対応する。

(4) その他

① 良好事例

内容
★能登半島地震を踏まえた訓練が各所に行われており、実効性の高い内容となっていた。
★航空機を使ってモニタリングの欠測を補う、新しい技術を使ったこと内容が随分盛り込まれていた。複合災害に備えるために、新しい技術を活用することは重要だ。

② 課題及びその対応の方向性

改善すべき課題	対応の方向性
●原子力災害時において交通渋滞等により混乱が想定されることから、県民に対して幅広く原子力災害の基礎知識の周知を図る必要がある。	・引き続き、様々な媒体を活用しながら関係市町と連携して県民に対する原子力防災に関する広報に努める。
●要員の専門知識の更なる向上のため、専門的な訓練や研修を開催してもよいと感じた。	・本訓練及び内閣府の図上演習を毎年度実施することにより、職員の参加者数の増加を図るとともに、原子力防災に係る研修について要員以外の職員にも参加を呼びかける。

●要員の情報共有等で活用する国のN I S Sについて、県・市町及び関係機関の情報端末との情報の伝達・共有が容易でなく、使いづらい。	・操作性の向上が図られるよう、N I S Sの機能改善について国に要望する。
---	---

3 住民アンケート実施結果

別紙のとおり

令和6年度 鹿児島県原子力防災訓練

住民アンケート 実施結果

1 令和6年度鹿児島県原子力防災訓練のアンケート実施概要

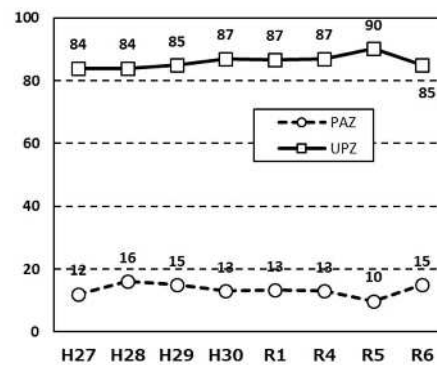
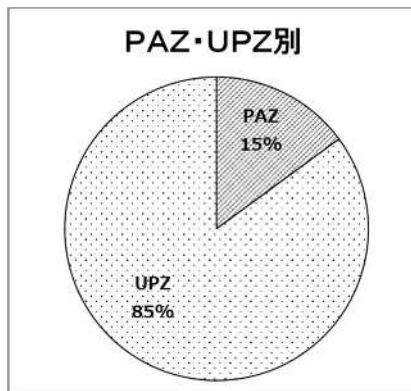
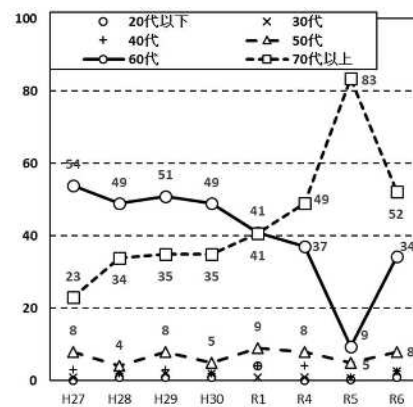
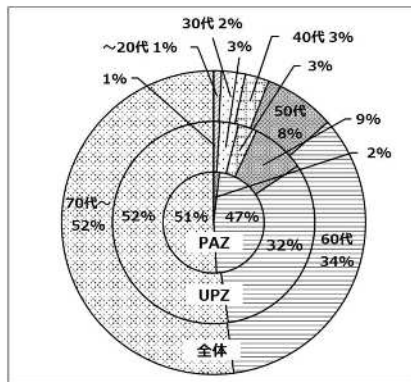
- ・実施日時：令和7年2月15日（土）
2月16日（日）
- ・実施場所：避難所等（関係市町により配布及び回収）
- ・対象者：薩摩川内市，いちき串木野市，阿久根市，鹿児島市，出水市，
日置市，さつま町，長島町の訓練参加住民
- ・回答人数：355名

薩摩川内市	105名	いちき串木野市	69名	阿久根市	56名
鹿児島市	18名	出水市	24名	日置市	48名
さつま町	28名	長島町	7名		

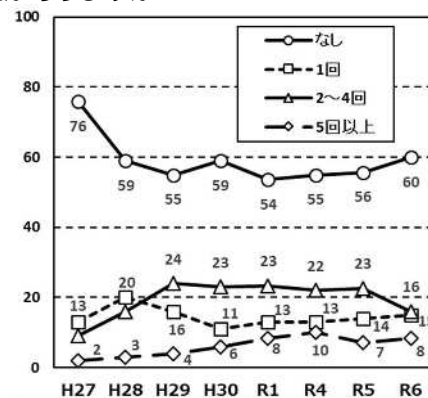
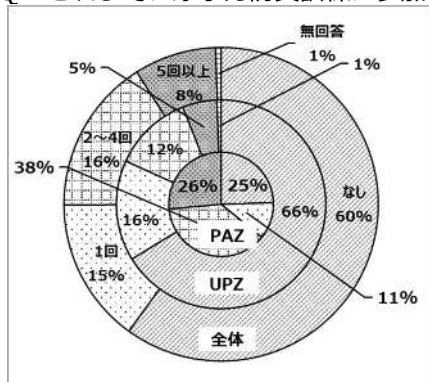
2 アンケートの目的

原子力防災訓練に参加した住民の意見を把握し，この結果を分析の上，訓練の充実に役立てることを目的として実施した。

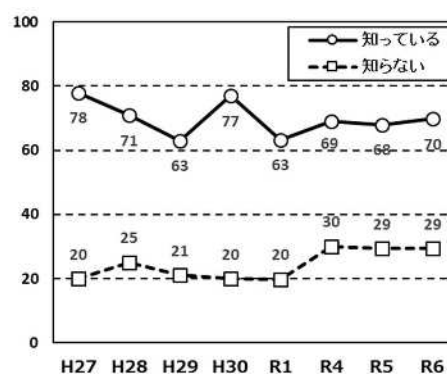
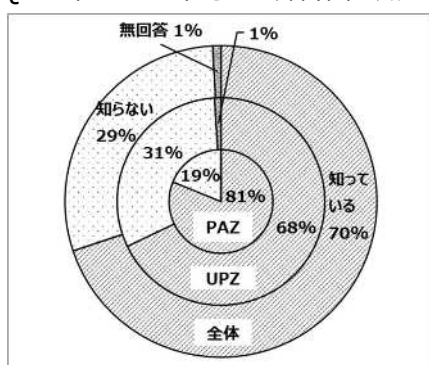
年齢層, PAZ・UPZの別



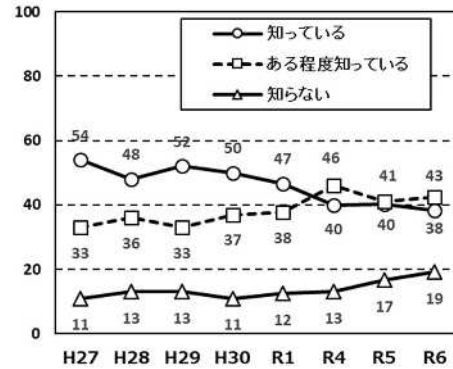
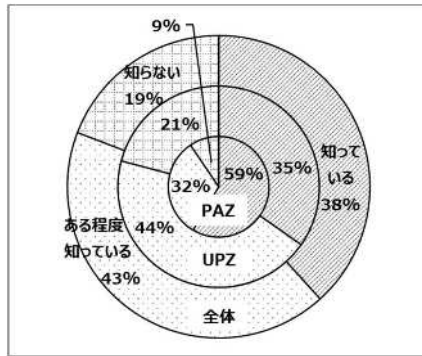
Q1 これまでに原子力防災訓練に参加したことがありますか



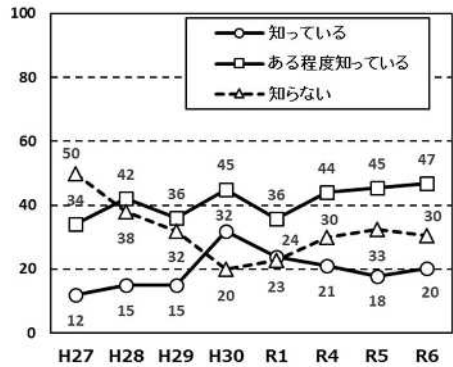
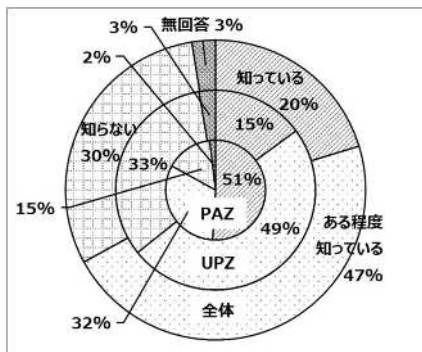
Q2 お住まいの市町の避難計画を知っていますか



Q3 原子力災害時の避難方法を知っていますか

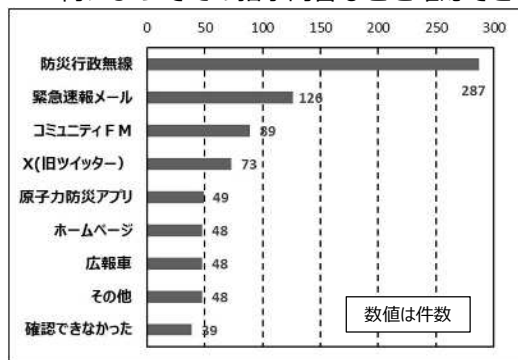


Q4 お住まいの市町では、いつどのような防護措置を行うか知っていますか

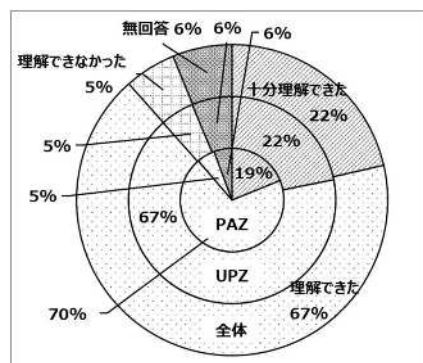


4

Q5-1 住民の方々へ室内退避や避難の指示などを伝える広報訓練を行いました。何によってその指示内容を確認できましたか

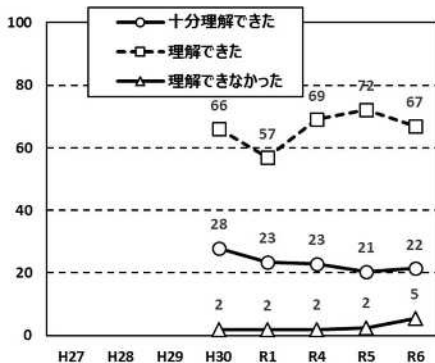


Q5-2 広報の内容（屋内退避や避難の指示など）は、理解できましたか



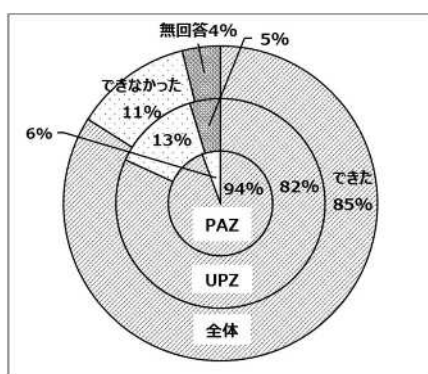
広報内容が理解できなかった理由

- ・もう少し詳しくしてほしい。
- ・外出しており、放送の内容がよく聞き取れなかった。
- ・AIによる自動音声は抑揚がなく、心がこもっていない。
- ・実災害時はどうなるのか心配。



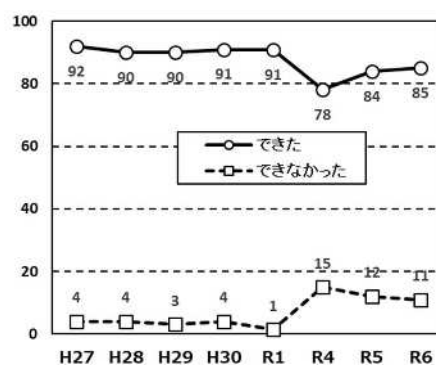
5

Q6 原子力防災アプリや紙のQRコードを使用した避難所等の受付はスムーズにできましたか

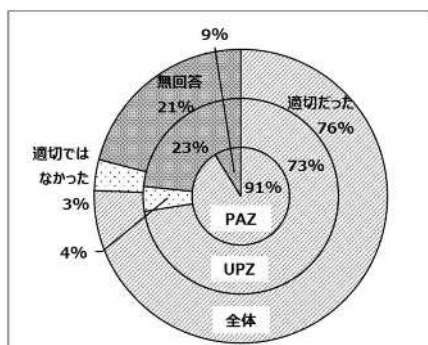


スムーズにできなかった主な理由

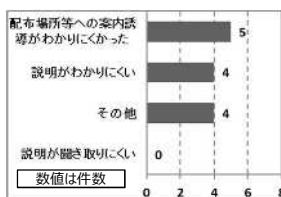
- ・スマホを持っていない。
- ・スマホの操作が難しかった。
- ・アプリをダウンロードしていなかった。
- ・QRコードを使ったことがなかった。
- ・急に雨がふって紙がぬれた。



Q7 安定ヨウ素剤の緊急配布は適切でしたか

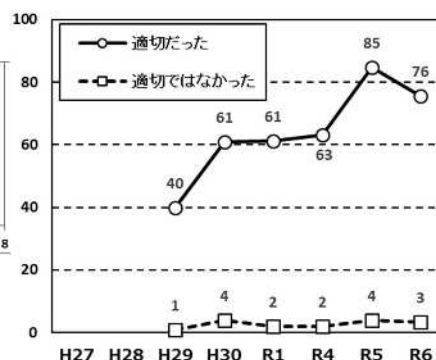


適切ではなかった理由

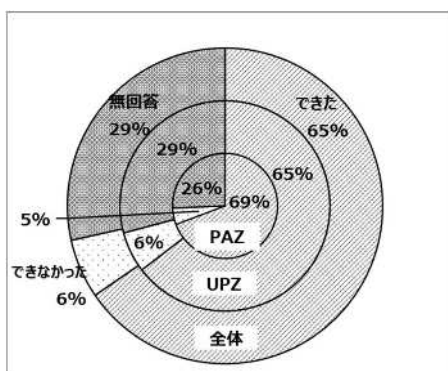


「その他」の具体的な内容

- ・配布に時間がかかった。
- ・配布にあたって十分な説明がなかった。



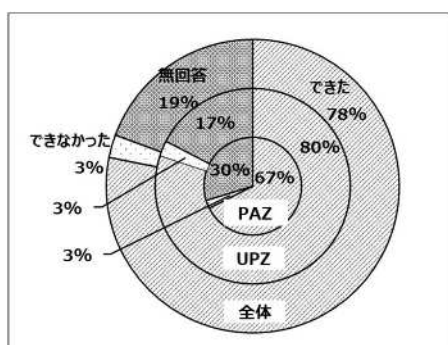
Q8 原子力防災アプリや紙のQRコードを使用した安定ヨウ素剤緊急配布はスムーズにできましたか



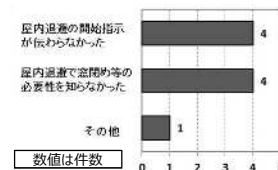
スムーズにできなかった理由

- ・スマホを持っていない。
- ・スタッフが慣れていなかった。

Q9 自宅又は避難所などでの屋内退避はできましたか

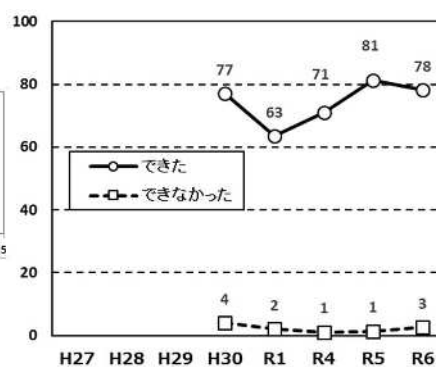


できなかった理由

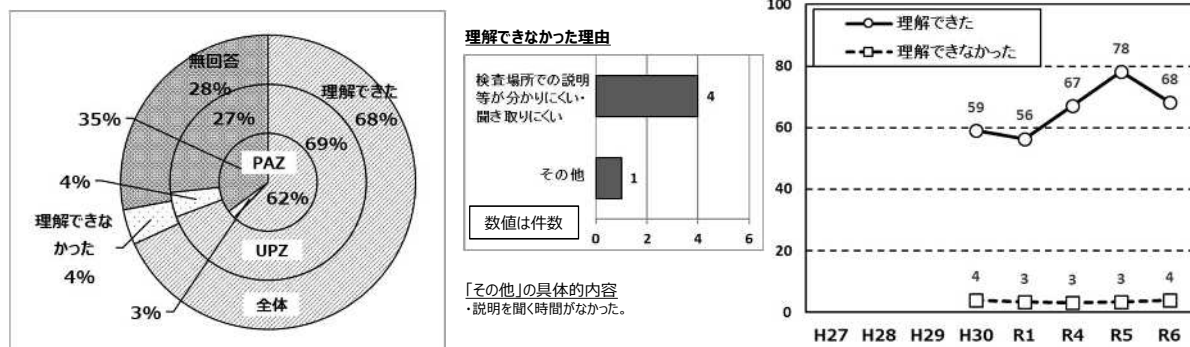


「その他」の具体的な内容

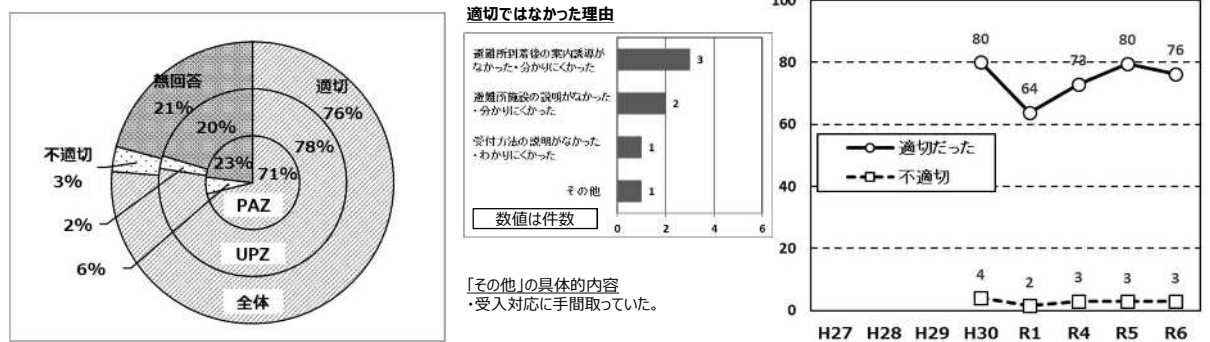
- ・十分な説明がないまま、避難することになった。



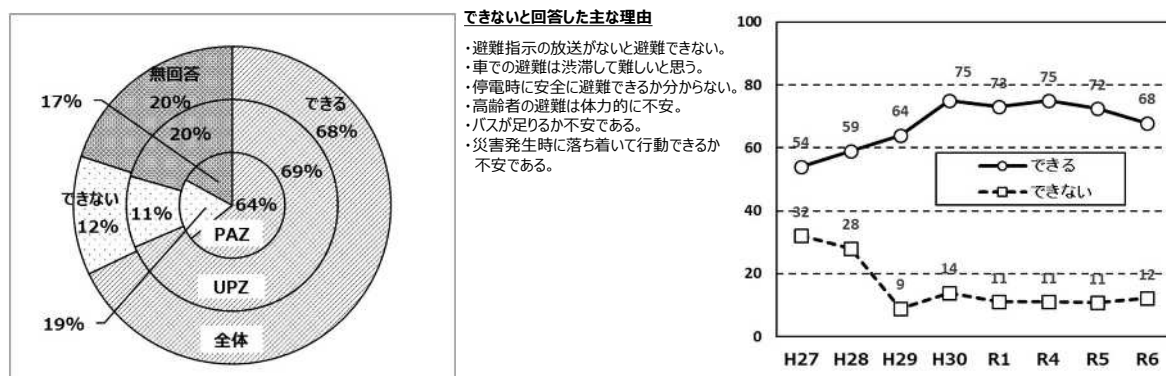
Q10 避難退域時検査場所での検査の流れは理解できましたか



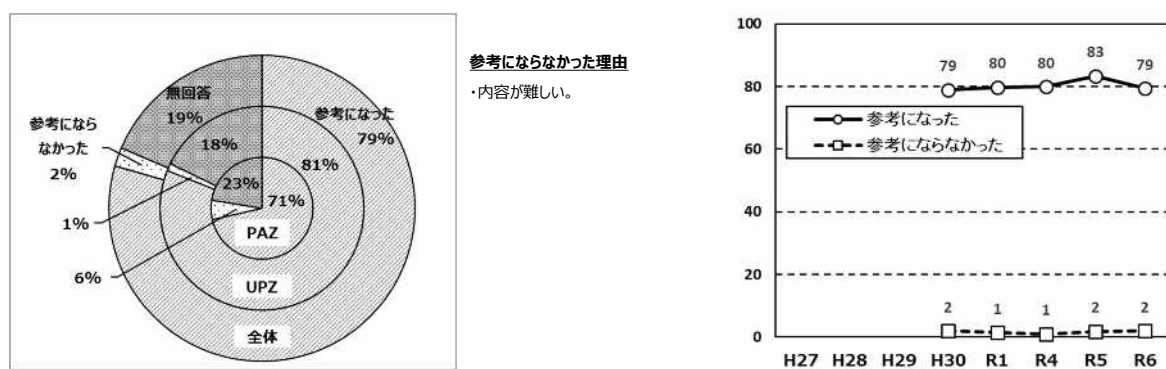
Q11 避難所の受け入れ対応は適切でしたか



Q12 今回の訓練を体験して避難できると感じましたか



Q13 防災講習会は参考になりましたか



参加住民アンケート集計結果概要

- 区域別の割合は、P A Zが15%、U P Zが85%である。
- 年齢別では、60代が34%、70代以上が52%で、60代以上が86%を占める。
- 居住地域の避難計画を知っている方の割合は70%で、前回(令和5年度)の68%から僅かに向上している。平成27年度以降は、63%~78%で推移している。
- いつどのように屋内退避や避難等を行うかを知っている方の割合は67%で、前回(令和5年度)の63%から僅かに上昇している。平成27年度以降は46%~77%で推移している。
- 今回の訓練を体験して避難できると感じた方の割合は68%で、前回(令和5年度)の72%から僅かに低下している。平成27年度の54%から平成30年度の75%まで毎年増加、その後は68%~75%で推移している。

10

主な自由意見（一部要約）

1 避難

- ・災害が発生したら避難時や避難場所等でのパニックが想定されるが、急ぐ必要はないという説明もあり安心しました。
- ・訓練なので時間等はある程度分かっているが、放送が集合場所に行くまでなかった。放送できない時は臨時の伝達方法を考えておく必要がある。（メールやLINEなど）
- ・実際の避難の場合、避難者の増大が予測されるため、今回の訓練をもとにスムーズな移動ができるように対応が必要。
- ・車いす、ペット同伴の決まりを知りたい。
- ・能登半島地震を踏まえた訓練を考えると避難経路の道路、橋の状況に不安を感じた。道路損壊や電柱倒壊等も考えられるので、避難バスが来れるのかももっと検証をする必要も感じる。
- ・高齢者等はトイレ休憩が多く必要。

2 防災講習会

- ・大学の先生による研修が大変良かった。
- ・地区公民館単位でも講習会、訓練は必要だと思った。
- ・今回の講演のような判り易い情報を広く市民へ提供する機会を増やして欲しい。
- ・福島原発事故の反省と教訓を感じることができなかった。

3 原子力防災アプリ

- ・防災無線で情報を得ましたが、無線が聞こえなかった時のためにアプリ登録が必要だなと思った。
- ・アプリの説明をくわしくして欲しい。

11